

# 宗教的カリスマ的経験の座標軸

Revival Japan 連載記事

安黒 務 著

月日	テーマ	内容
2009 3/1	①古池や、蛙飛び込む水の音	①静かに広がる波紋、②私の霊的系譜、③怒涛の落水のごとく
3/15	②あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます	①臨終伝道への挑戦、②人は死後どうなるのか?③神の国とは
4/1	③悪霊追い出しと解離性同一性障害	①悪霊の追い出し、②解離性同一性障害について、③残されている研究領域
4/15	④百聞は一見にしかず	①脚色なのか、真実なのか?②今日の現実でもあるのか?③霊的経験の規範—聖書
5/1	⑤大きなのっぽの古時計	①アニミズムの世界観、②大きな振り子の原理の中で、③聖書的な超自然性こそ
5/15	⑥象と五人の目の見えない人	①近代と現代の神学の動向、②最近の宣教学の動向、③象と五人の目の見えない人
6/1	⑦科学と神学・聖書と宗教	①科学と神学の関係、②聖書と宗教の関係、③キリストの独自性と世界性
6/15	⑧異なる神学的言語体系間の対話のあり方	①聖書解釈の四要素、②異なる神学的言語体系、③本質化・普遍化、④同心円的構造
7/1	⑨霊による賛美・霊による祈り	①霊による賛美の解釈、②霊による祈りの解釈、③超越的描写と内面的描写
7/15	⑩聖霊運動—21世紀への神学の動向	①21世紀への神学の動向、②アバ意識—サンシップ、③アドブションの教理
8/1	⑪静寂の祈り・運動の祈り	①救いの確信、②祈り—アバの繰り返し、③静寂の祈り、④我と汝—アバ、父
8/15	⑫「聖霊の満たし」の方向性	①生きることはキリスト、②聖霊の満たし、③聖霊論の第三次元：召命
9/1	⑬“真正なる自分自身”への召命	①聖霊の満たしの目標、②受け取る物の本質となる、③真正なる自分自身となる
9/15	⑭聖書は、回心と召命の物語である	①聖書は召命の物語、②宣教命令と文化命令、③個性の多様性に対応

月日	テーマ	内容
10/1	⑮溺れる者、藁をも掴む	①君は何故、クリスチャンに、②不安に満ちた13時間の登攀、③私の“生”そのものが
10/15	⑯私たちの“生”を照らす光としての聖霊	①神の最高傑作としての人間、②“生”の意味と価値、③平凡な“生”を照らす光
11/1	⑰“氷点”を照らし、溶かすお方としての聖霊	①罪について、②義について、③裁きについて
11/15	⑱自分の胸の底に生まれた時から潜んでいるもの	①夏目漱石著『こころ』、②「罪」という問題、③絶望の中の感謝の雄たけび
12/1	⑲蚊を殺すこと、人を殺すこと	①ニーチェ著『ツァラトゥストラかく語りき』、②良心は裁きを知っている、③私たちの肉性を反映する鏡
12/15	⑳“ハレー彗星”のイメージで迫られる	①千里の道、万巻の書、②“ハレー彗星”のイメージ、③天地造りし神は
2010 1/1	㉑ “三つ子の魂、百まで”	①お前、プロテスタント?②K GKの“DNA”、③調和的理解：ライフワーク
1/15	㉒ 『ペンテコステ・カリスマ派福音主義神学：再考』	①カリスマ派神学：再考、②神学の構築・分解・再構築、③福音主義神学運動の脈絡の中で
2/1	㉓ 誰かに閃きを与えることができれば	①示されるイメージに従って、②御霊の風に身を任せて、③誰かに閃きを与えられれば
2/15	㉔ エンドレスに、シリーズは続く！	①私の重荷—神学的衣の提供、②私の取り組み—背骨の構築、③多くの神の御業を見せられ
3/1	リレー連載—◆32. 福音とは何か?	①“死”と関わりのある問題、②“罪”と関わりのある問題、③“生”と関わりのある問題、④義認・聖化・召命の問題、⑤“永遠”と関わりのある問題、⑥“宇宙大”の視野の問題、⑦地上と永遠の連続性の問題